



南関東総体 2014

全国高校総体(読売新聞)

# 男子背泳 堀田らに期待 17日から水泳

り(敬称略。県高体連まで)め。

## 【競泳】

男子 平岩賢人、戸野本陽友、片山瑞貴、村上鉄平、鈴木孝二郎、常盤寛矢、高橋一貴、内村甲、安島崇貴、八幡建夫、塚田大司、水

金啓二、後藤和真、伊藤諒(以上法政二)豊田将大(生田)梨浦颯大、磯秀昭、住持拓哉、笠井基貴、光野智大、中島大真、金沢蓮、黒沢達、小島侑弥、田中優太、南沢穂昂(以上日大藤沢)大沢直人、小原健太(以上、相洋)高崎寛大

乃、池乃、山城日向子(以上、湘南工大付)木村和華、多田理緒、千、大塚妃子、水田舞羽、小松田美香、中西希(以上、日大)小堀舞子(港北)高崎有紀(湘南)堀沢樹花、若山美穂、山本理加、井上真、村上菜穂、石川朋美、金子真恵、中本美夢、清田朱貴、浅野理子、七里碧海、白田史歩(以上、日大藤沢)奥山瑞穂、仲山鈴乃、伊賀崎ひかる、佐久間彩、伊東美音、本崎あゆみ、下郷夢奈(以



II。渡辺直美教育長が「市民は心から活躍を期待している。ぜひ全国で頑張ってきてほしい」とエール。部員代表の楠本祐輔選手(3年)は「練習してきたことを全部出し切れるように頑張りたい」と健闘を誓った。

「これで、やっと一歩、前に進めるようになりました」東日本大震災で被災した岩手県陸前高田市で、20歳代の息子を津波で亡くした女性の言葉が、今も耳に残る。女性は息子の遺骨を墓に入れることをためらっていたそばで、暮らしたいのだという。女性から電話を受けた小原三夫社長(69)は、自社製品「ご供養家具」を自ら届けた。東北が寒風にさらされていた冬のこ

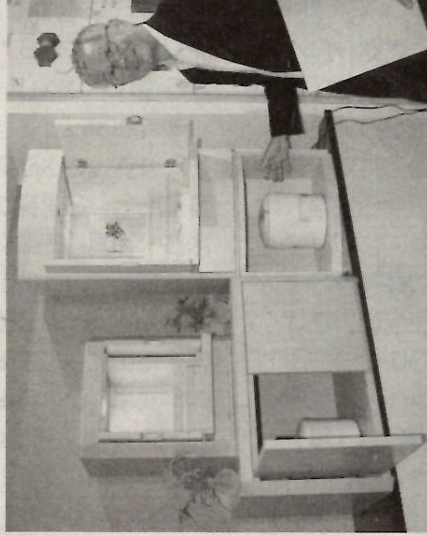
とだ。ご供養家具を考案し、商品化したのは2010年の暮れ。「リビングに置けるお墓」という奇抜なアイデアだったが、「墓地は暗くて冷たいのでは……」との思いも、特に

# 企業 暮らし

## ご供養家具 リビングに

ユウキ (横浜市都筑区)

「ご供養家具」について語る小原社長(横浜、市都筑区の社内で)



幼い子供を亡くした人たちがいる。高さ80×135センチの4タイプ。基本的には上部が祭壇、下部が納骨庫という構造だ。メイプルやローズウツドの木目が美しい。扉などの表面に

1993年創業。当初はオーダーカーテンの販売を手掛けていたが、間もなくオーダーメイド家具の企画販売に転換し、年間1億円。従業員4人。「フック1個から高精度家具まで、顧客のいろいろな要望にも応え、顧客のいかに、昨年から再び高級カーテン分野にも復帰し、縫製職人と連携して「ユウキ縫製」として

施されたほんのわずかな膨らみは「設計図には表せない、職人の感性です」と小原社長。違和感なく部屋に溶け込む。

本業は、オーダーメイド家具の企画販売。北海道旭川市、広島県府中市など全国有数の家具産地の一流職人と提携し、顧客の希望に添える。リビングボード、食器棚、カウンター、テーブルなど、どんな製品でも顧客の要望をかなえることにこだわる。

削りがつまい職人、張り物が得意な職人、誰よりも早く、安く仕上げる事ができる職人を考えて依頼。寸法も色も使い勝手も、すべてにおいて妥協のない家具を目指している。

小原社長は大学卒業後、化粧品メーカーの関連会社に就職したが、26歳で横浜市の家具卸問屋に転職。29歳で独立

し、40歳代前半で今の会社を設立した。社名は「勇氣」からつけた。

ご供養家具の販売実績は約40台。問い合わせは多いが、遺族が希望しても、周りの親族らに止められるといったケースが少なくないという。それでも、北海道から九州まで全国各地から注文を受けたといい、「今の若い人が親になる頃には、壁はなくなっていくと思う」と前を見据える。

職人とのネットワークが何よりの財産。彼らが技を披露する場をつくりたいという思いも強い。オーダーメイドは割高ではあるが、「二流、三流の商品で満足しては日本は国際競争に負けます。ものづくりへの追求がなければダメです」。規模は小さくても、仕事の内容で一番を狙う。それがポリシーだ。

(長原敏夫)